

# 担当教授「事故なかった」

## 女子医大事件

### 前院長、報告うのみ

#### 女児死亡 直後聴取 内部告発生かせず

東京女子医大病院(東京都新宿区)で心臓手術を受けた平柳明香さん(当時15歳)が死亡した医療過誤事件で、同病院循環器小児外科講師、瀧尾和宏容疑者(46)〔証拠隠滅容疑で逮捕〕の上司だった主任教授(66)は手術後、当時の院長(69)に「事故はなかった」と事実と異なる報告をしてきたことが11日わかった。前院長は教授からの報告をうのみにし、結果的に、明香さんの死因究明が遅れた。林直樹・現院長は読売新聞社の取材に、当時の管理体制に甘さがあったことを認め、「信頼回復のため、出直したい」と語った。



参院厚生労働委員会で意見陳述する林・東京女子医大病院院長(手前)、後方は傍聴する平柳明香さんの両親、利明さんとむつ美さん(午前10時40分、国会で)

関係者によると、明香さん(当時15歳)は手術後、手術室を告発する文(ほかの二人の教授からも異議が出なかった)を提出した。同日、主任教授は明香さん(当時15歳)を手術後、瀧尾和宏容疑者(46)に「事故はなかった」と事実と異なる報告をしてきたことが11日わかった。前院長は教授からの報告をうのみにし、結果的に、明香さんの死因究明が遅れた。林直樹・現院長は読売新聞社の取材に、当時の管理体制に甘さがあったことを認め、「信頼回復のため、出直したい」と語った。

林院長は、医療過誤があった昨年三月当時の病院の姿勢について、「主任教授や担当者が、もう少し詰めて話を聞かなくてはならなかったのではないか」となげめ、医療過誤に対する調査体制や病院幹部の意識の問題があったことを認めた。そのうえで、「信頼は簡単に回復できない。病院の再生はもはや不可能で、新生するしかない。私の意をかねて過去を清算し、かみ出直したい」と語った。

委員会は11日、林直樹院長に対する参考人質疑を行った。林院長は冒頭の意見陳述の中で、事件の問題点や背景として人工心肺装置の操作に専門の技士が立ちまわっていないことが小児循環器の内科と外科の連携の問題があったこと、事故が起きた日本心臓血圧研究所は独立意識が強く、他の診療科からも特別視されていたことなどを指摘した。また、「主任教授の件は(第三者で構成する)外部評価委員会に調査する。個人責任は(事件を隠した)土壌を作った管理責任について、はつきり追及していく」と述べた。

明香さんの両親、平柳利明さん(51)とむつ美さん(42)は、この日、委員会の傍聴席で質疑の様子を見守ったが、林院長のあいまいな説明に「がっかりした。女子医大は何も変わっていない」と落胆した表情を見せた。

平柳さん夫婦は、林院長が質問に応じた場所の五層ほど後ろの席に座った。利明さんは腕を組み、厳しい表情で、その背中を乗り出すようにして見つけた。むつ美さんは、林院長の説明

「改ざん軽視の刑法矛盾」  
両親、法整備へ要望書  
明香さんの両親、平柳利明さん(51)とむつ美さん(42)は、この日、委員会の傍聴席で質疑の様子を見守ったが、林院長のあいまいな説明に「がっかりした。女子医大は何も変わっていない」と落胆した表情を見せた。

女子医大小児心臓手術事故  
院長謝罪  
2002年7月11日 読売新聞夕刊